



**JR東労組** (東日本旅客鉄道労働組合)  
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1  
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階  
 電話 03-5315-0941  
 発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子  
 毎月1回20日発行/一部20円  
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

2023年5月20日  
第749号



JR東労組ホームページは  
 ←こちらからアクセス  
<http://www.jreu.or.jp/>

申13号  
2023年度

**夏季手当等**

に関する  
申し入れ

基準内賃金の**3.0**ヶ月要求!

コロナ禍での奮闘に対する特別手当 一律**10万円**要求!  
回答は6月9日まで 支払いは6月30日まで

**バス関東本部**

申11号 2023年度夏季手当等に関する申し入れ  
 基準内賃金の**2.5ヶ月**要求!  
 (契約社員Aは社員に準ずること)  
 契約社員B及び臨時雇用員は**一律5万円加算**要求!  
 コロナ禍で奮闘した手当として全従業員に**一律10万円**要求!  
 回答は6月16日まで 支払いは6月30日まで

**バス東北本部**

申6号 2023年度夏季手当等に関する申し入れ  
 基準内賃金の**2.45ヶ月**要求!  
 契約社員は社員に準ずること  
 要員不足での奮闘に対する特別手当  
**一律5万円**要求!  
 回答は6月16日まで 支払いは6月30日まで

**ステーションサービス協議会**

申5号 2023年度夏季手当等に関する申し入れ  
 基本給月額**3.0ヶ月**要求!  
 コロナ禍を乗り越え、会社設立10年の奮闘に対する  
 特別手当 **一律10万円**要求!  
 回答は6月16日まで 支払いは6月30日まで

**職場の弛まぬ努力に報いて、今こそ満額回答する時だ!**

生活実感



労働実感



生活実感: 電気代・燃料代の高騰、止まらない物価上昇、若手離職者の急増、ベアは行われたものの実質賃金目減り

労働実感: 観光需要回復とインバウンド急増、増収・コストダウンの努力、融合と連携、組織再編による業務逼迫、要員逼迫の中でも踏ん張ってきた努力

本部は5月15日、2023年度夏季手当等を申し入れました。2022年度期末連結決算は、鉄道利用などが回復し、全セグメントが増収、各損益は3年ぶりに黒字転換しました。コロナ禍を乗り越え黒字転換を実現したのは、組合員の弛まぬ努力の結果である事は言うまでもありません。

一方、23春闘では3年ぶりのベア実施となったものの、実質賃金は大きく目減りしており、歴史的な物価高によって苦しい生活が続いています。また、「融合と連携」等により労働密度が高まり続けているにも関わらず賃金抑制が続く、過去最高の働き度、物価上昇に賃金が追いつかない実態は変わりません。

また、この3年間の期末手当交渉では、コロナ対応への特別手当を求め続けてきたものの回答はなく、納得感を持っていません。各系統で要員が逼迫する中、賃金も含めて将来に不安を抱く社員が多くなり、人材流出が止まらない状況となっています。

したがって、「生活実感」「労働実感」「人材確保・定着」と、3年ぶりの黒字転換をつくり出した組合員とそれを支える家族の奮闘に報い、モチベーションの維持・向上が必須であることから、満額回答を強く求めました。

23春闘では社長の「賃上げ慎重発言」をはじめ、社友会や他労組による低額相場の社内世論づくりが行われましたが、私たちの職場でのたたかいは、決して低額相場を跳ね返してきませんでした。団体交渉は労働組合でしかできません。組織力を強化し、職場と本部交渉団が一体となってたたかきましょう!

**社内世論、(23春闘での例)**

他労組組合員: ベア3000円しか要求してない。少なすぎる...

社友会会員: 1000~3000円でいいなんて言っていないし、聞かれてもいない...

社長の「賃上げ慎重発言」によるムード打消し

JR東労組組合員: 定昇「係数4」実施! ベア1万円要求!

あんたの会社、大丈夫なの...

ベア1000~3000円を要望します

社友会役員

取り巻く状況

**好調なGW輸送!**  
新幹線・在来線のご利用  
前年比**140%**

**大幅業績改善**  
2022年度期末決算  
3期ぶり**黒字転換!**  
営業収益(単体)は  
前年比**124%**

成田空港駅(2ビル含む)は  
2018年比**118%**  
コロナ前より好調!

支払い能力

**支払い能力は十分にある! 23春闘で低額相場を形成しようとする社内世論、を打ち破ったことを教訓に、組織力を高めて満額回答を実現しよう!**

先日、劇団文化座の代表である佐々木愛さんの女優生活60年と銘打った「母」を鑑賞しました。新型コロナウイルスが感染症法上の位置付けが5類へ引き下げられたことに伴いコロナ対策が緩和され、久しぶりに満員の劇場で鑑賞することができた▼物語は、戦時下で思想統制される時代の中、労働者が人間らしく生きることのできる世の中をめざし、小説を書き続け、力強く生き抜いた小林多喜二と、多喜二の母であるセキの生き様を描いている▼間近で見る迫真の演技で、私も物語の中に入り込んだかのように感じられた。そして、人を大事にし、真つすぐに生き抜いた家族の姿に胸が熱くなった▼ウクライナでは未だに戦争が終わらず、多くの命と生活が犠牲になっている。人間らしく生きることを買いた多喜二やセキの人生から学び、私たちも力強く運動をつくり出そうと感じた▼劇団文化座のみなさんは演劇を通して真実を風化させることなくメッセージを発信している。私も労働運動を通じて平和で安心して暮らせる世の中をつくり出すため、あらゆる組織破壊に屈せず闘い、組織強化・拡大を職場で実践していくと決意した。(M・Y)

